



SDGsで「ことす」を「ことす」「ことをなす」

京都里山SDGsラボ「ことす」は廃校を活用して、大きく「テレワークができる空間」「地域の方々とコミュニケーションができる空間」に分かれています。テレワークエリアでは京北の風や川・森の風景を見ながら静かな空間で仕事ができるほか、DXスタジオやイベント・講演会が行える多目的ホール(リシンクホール)、木工工作やアート制作が行えるアップサイクルファブラボ、キッチンラボ等を備えています。

いつか、この地がSDGsバレーと呼ばれるように…

「ことす」は、市街地より空間的にぐっと余裕があり、屋外のすがすがしい空気の中で過ごすことも容易です。自然をふんだんに味わえると同時に、オンライン環境も充実するため、オンサイトとオンラインをうまく組み合わせ、コロナ禍でも、よりアクティブかつディープに交流できるようになりそうです。

深呼吸をしたり、川を眺めたりしながら、そこで語り合いたいのは…趣味、美味しいもの、楽しい旅の思い出、仲間との笑い話などなど。

そうして、心と体をストレッチしたところで、いよいよ、SDGs・社会課題解決につながるプロジェクトについてのプレーンストーミングが始まります。2025年大阪・関西万博では、わくわくするような何かで魅せたい！2030年SDGs目標年には、一定、持続可能な

京北地域の姿にたどり着きたい！2050年には、脱炭素を達成したい！！

そのために、今、どのような変革が求められるのか？世代や分野を超えて、議論すると同時に、連携プロジェクトの種が生まれ育つ場にできればと思います。そして、いつか、この地がSDGsバレーと呼ばれるように…

あさり みすず
京都大学大学院 地球環境学 准教授
浅利 美鈴
「ごみ」や「環境教育」「SDGs/持続可能なコミュニティ創出」などが研究テーマ。「びっくり!エコ100選」や「3R・低炭素社会検定」「京都超SDGsコンソーシアム」などを立ち上げ、社会にムーブメントをおこすべく、実践・啓発活動や情報発信にも力を注ぐ。



ことすで地域の暮らしを学び、ビジネスを創造。

ことすに来る前は東京のオフィスにいましたが、コロナの影響でほぼ1年半、在宅勤務でした。現在は、京北に移住し、ことすにて中山間地域からの事業開発を行っています。ことすは社内全体で10ある地域プロジェクトのひとつで、ことすには私を含めて

5名のメンバーが在籍しています。私自身は自然の近くで地域の資源を元に暮らす、という生活に憧れていました。京北は豊かな自然と伝統を大切に守られていた地域であり、ユニークな1ターン・Uターンをされている方が多いのがこの地域の魅力ですね。

ことすには地域や社会に向けて、「開けた」場所であって欲しいと思っています。私としては地元の方に、この地域の伝統をご紹介いただくような会をオンラインで発信したいと考えています。地域の暮らしに関心があっても、なかなかここに出向いてよいかかわらない人も多いと思うので、知る機会や体験する機会をことすや京北の地域でつくられたらいいな、と思います。

個人的には川沿いの立地を生かして、暖かくなったら川のなかで働くというのもやってみたいですね。



「もちろんモバイル派です。ことすにはコーヒー用とお茶用の2つのポトルを持参しています」

株式会社リコー 環境・エネルギー事業センター 地域プロジェクトG おおこし えみ 大越 瑛美



地域プロジェクトとして担当地域に住むようになったので、元々オンラインで進めていたものはそのままオンラインで継続し、地域の仕事は対面、と切り分けて進められるようになったという。

クリエイティブエリアで、仕事だけでなく「創造」を愉しもう！

『ことす』が他のテレワーク施設と決定的に違うのは元の小学校を利用していることでしょうか。教室部分はオフィススペースになっていますが元々あった図工室と図書室は「アップサイクルファブラボ」としていらなくなったものから木工・手芸等で新しい価値を創作するラボに、家庭科室は「キッチンラボ」として料理教室等のイベントができるラボに、音楽室は「DXスタジオ」として動画配信や映画鑑賞が行えるスタジオに、そ

アップサイクルファブラボ



木工製作やアート制作、手芸などができる



貸し出し工具も充実



「地域の文化を伝える方々、京北在住の職人さんが講師となり木材や手芸に限らず伝統や知恵、工夫も継承出来る場になればと思っています。まずは気軽にワークショップにご参加ください。また、企業合宿、会議も受け付けておりますのでご相談ください」

あずま しょうへい 東昇平 東工務店 一級建築士事務所 代表

伝統の逸品を、新たな製品として生まれ変わらせる

京北は平安京の時代から都に木材を提供してきた場所です。その技術は今も受け継がれ、我々京北銘木生産協同組合ではその技術の結晶ともいえる「北山丸太」を生産しており、中でも「絞丸太」は年輪が密で、ツルツルと艶やかな木肌が特徴です。

ことすのオープンに際しましては机・カウンターなどの什器を、天然のコブを活かした北山天然出絞丸太を使って製作させていただきました。今となっては丸太を床柱にされる方も少なくなりましたので、外部の方々と共に創ってこういった北山丸太の新たな利用方法を探る、というのはとても励みになりますね。今もこの伝統の北山丸太を使った新たなビジネスを考えているところです。



いしせ あきひろ 一瀬 章弘 京北銘木生産協同組合 事務局担当理事

「京都里山SDGsラボ運営協議会」とは？

SDGs先進都市の京都市をフィールドに産官学が連携し、SDGsの社会実装を目指して2019年に誕生したのが「京都超SDGsコンソーシアム」です。京都里山SDGsラボ運営協議会はこのリソースを活用し、京都の北部山間地域の活性化に向けて施設整備、運営・プロモーション、利用者誘致だけでなく、地域住民の積極活用や交流をはかるために設置されました。

京都超SDGsコンソーシアムについての詳細はこちら ▶ SDGs KYOTO TIMES 🔍

